

Q. 18 『よい授業』を行うためには学習環境を整える必要があると思います。学習環境にはどのようなものがあるのでしょうか。

A. 授業の多くは、学級を単位として行われます。『よい授業』を行うためには、学習環境の1つとして、学級の雰囲気を整えることが極めて重要です。学習環境には、学習場所としての環境（物的環境）や学習集団づくり、学習習慣の育成など（人的環境）があります。学級担任を中心に、全教職員が協力して進めていくことが重要です。

○教室環境の整備

環境づくりは掃除や整理整頓から始まります。学習の場を、清潔で落ち着いた空間にしておくことが大切であり、机・いすの並びや黒板の汚れ取り、学級用図書の整頓など、授業に入る前に整えておく必要があります。

また、適切な室温や照明、換気などにも気を配りましょう。

掲示物の工夫も重要です。子どもたちの学習の成果物や学習内容に関する資料等を掲示し、学習の意欲付けを図ることは大切です。外れかけた掲示物をすぐに留めたり、定期的に新しい物に貼り替えたりするなど、掲示物を大切にすることが子どもを大切にすることにつながります。

子どもたちが学習に集中できるように、掲示物を貼る場所も考えましょう。

○学び合う集団づくり

子どもたち同士や子どもと教師の人間関係づくりは『よい授業』づくりの大きなポイントになります。一人の児童生徒の意見を学級の友だちが認めてくれるような学習集団を育てる必要があります。すべての子どもが学習に参加でき、互いの学習を深めたり広げたりすることができるように、安心して学び合える集団づくりを目指しましょう。

学習規律も大切な要素です。授業中の私語や学習用具などの忘れ物、授業への遅刻などが現れてくると、『よい授業』どころではなくなってしまいます。授業妨害も含めて、早期に毅然とした指導をする必要があります。『よい授業』を期待する、子どもたちからのサインとして受けとめる視点も必要です。

○学習習慣等の育成

子どもたちの学習習慣を育てていくことはたいへん重要です。また、基本的な学習方法を身に付けさせておくことも必要です。授業の中でも、各教科の意義や日常生活との関連、学習の仕方や予習復習の進め方、テストの受け方などについて計画的に指導していくことです。家庭と連携しながら進めていくことも大切です。

○教師自身が大きな学習環境

教師のものの考え方や感じ方、行動の仕方、子どもたちへのかかわり方など、すべての言動が影響を与えます。教師自身が最も大きな学習環境になっているということからも、児童生徒を大切に、一人一人を尊重する姿勢が必要です。

